



令和5年度前期終業式 式辞

今日、令和5年度、前期が終了します。まず、私が全校のみなさんに伝えたいのは、この岐南中学校の前期の取組に大変満足しているということです。

先日、「命を守る訓練」が行われました。私は、みなさんの訓練の様子を見て、感想をお話しする予定でしたが、出張でお話できず、申し訳なかったと思っています。しかし、あとで、みなさんの様子を教頭先生や江川先生から聞いて、とてもうれしかった。「命を守る」というのは、何よりも大切なことです。その訓練で、「訓練だから」と甘くみたりするのではなく、真剣に取り組める岐南中生、本当に素敵です。なぜなら、日常生活に手を抜く人は、「本当の火事ではないから」と、必ず甘く見る弱さが出てきてしまう。そうではなく、日頃からの岐南中生の「生き方」が表れた「訓練」であったこと、うれしく思っています。

さて、この前期は、岐南中生の素晴らしさが、岐阜県内に広まった前期でもありました。7月13日の中日新聞「中学生が地域活動を提案」の記事で、生徒会執行部が、アフターコロナの地域づくりに「中学生ができること」、フリーマーケットや福祉施設での合唱を学校運営協議会に提案したことが掲載されました。中学生が地域の人に直接、地域をレベルアップするための主張をする、これは、県内でも大変注目された、素晴らしい取組です。そして、伏屋前会長は「学校だけにとどまらず、大きな視野で活動したい」と話しました。この言葉には、今まで全校を引っ張ってきた誇り、高い理想が表れています。岐南町の人たちは、この記事を読んで、岐南中生をどれほど頼もしいと思ったでしょう。岐南町の人たちに、岐南中生の素晴らしさが伝わったということ言えば、少年の主張発表会で、湖口（こぐち）さんの「二人分の愛」、廣江さんの「ヘルメットをつけよう」という主張は素晴らしい主張でした。勿論、伏屋さん、森さん、今井田さん、加藤さんの主張もとても素敵でした。今、岐南中生が自らの生き方を見つめ、努力しているという営みが、しっかりと伝わったはずで、また、その折に、昨年度、全国いじめ問題子どもサミットで、岐阜県の代表として、文部科学省で岐南中の取組を発表した、川添さん、小島さん、平松さんが、その発表を岐南町の人たちの前でも披露してくれました。こういった取組は岐阜県内でも誇れるものだ、私は思っています。

その他にも、昨日、10月5日の岐阜新聞「中学生、広がる支援の輪」の記事で、3年生の総合的な学習の時間、「貧困」をテーマした学習で、「フードドライブ」という、困っている人に集めた食材をお渡しするという取組が取り上げられました。この取組は、岐阜県内でも、とても注目されています。その中で、後藤さんは、「日本には7人に1人が貧困で困っており、自分たちにできることを続けていきたい」と語っています。私は、3年生がどう

して、このような主体的な取組を行おうとすることができると主任の後藤先生に聞いてみました。すると、後藤さんが、広島宿泊研修での経験を通して、「私たちができることは大きな事だけでなく、日々の小さな助け合いや思いやり」、「自分にできる小さなアクション」を大切にしていこうと決意したことを聞きました。現在、3年生207人が、環境・貧困・福祉・産業労働・異文化理解・戦争・教育・災害支援の8つのコースに分かれて活動してくれています。この取組は、素敵な生き方から学び、自らの生き方を見つめ、高めていく行動を起こすという点で、極めて質の高い学びです。その中の「貧困」について考えるコースでは、「食べることは生きることであり、食を通して岐南町に貢献する」という決意が「フードドライブ」という活動につながったのです。ぜひ、今年の3年生の質の高い取組を引き継ぎ、1, 2年生は、さらにレベルアップしていったと願っています。今の1, 2年生にはそれができるはずではあります。

主任の藤村先生から、1年生の加藤さんは、学級委員そして学年学級委員長に挑戦し、リーダーシップを発揮するだけでなく、給食配膳や掃除など、日常生活でも手を抜かず、誠実に取り組んだことを聞きました。1年生は「この仲間となら頑張れる」という関係性を築き、中学生としての基礎を固める時期です。それができた1年生なのです。

また、主任の羽田野先生から2年生の岩田さんが職場体験で「ものづくりなら自分が作るものを使う相手のことを、教えることをする仕事ならその教える相手のことを考えて仕事をする」との大切さを学び、「将来、どんな仕事に就いても、仕事をした先の相手のことを考えられるようにしたい」と感じていることを聞きました。2年生はそれぞれが、89か所の事業所に分かれて、そんな貴重な体験をしてきたのです。これだけ、充実した職場体験をしている中学生は、県内でも岐南中くらいだと私は思っています。

そして、中学生にとって、より質の高い生き方の基礎となるのは、やはり学習です。今年の全国学力・学習状況調査で、3年生が素晴らしい成果を残しました。それに加え、日常の係活動で、手を抜かないのが、岐南中生です。今、岐南中に、よく地域から電話がかかってくる。先日の町民運動会という最も大切な行事で、岐南中生が中心となって活動してくれているというお礼の電話です。例えば、アナウンスを担当した2年生の尾崎さん、近藤さんが「岐南町の行事を明るく盛り上げてくれた」といった、岐南中生のボランティアへの感謝の言葉を聞くとき、私は「岐南中生」を本当に誇りに思えます。その他のボランティア活動でも、岐南中生の素晴らしさは、確実に地域に注目されています。岐南町長、教育長、自治会長、教育委員、様々な方から、「岐南中は素晴らしい」という言葉を、毎日のようにいただきます。岐南中の学校の教育目標は「自ら動く～自分や仲間の夢や希望の実現のために～」です。今の岐南中生は「自分や仲間」に加え、「社会」のために活躍しようとしていることが素晴らしい、そして、それは、「学ばんとともに進まんとともに」という生き方を大切にしている岐南中生だからこそ、それができている。このことを今日の式辞の中で、全校のみなさんに伝えたいと思い、今日のお話をしました。

さて、最後に「キッズウィーク」の宿題です。まずは、スポーツステーションでの勝利のために、一人一人が自分に何ができるのか、どんな力を付けるのか、しっかり考えてきてください。そして、その後の後期で、一人一人が、他の人とは違う、どんなふうに、個性的に輝けるのか、考えてきてください。それこそが、1年生は中核学年、2年生は最高学年として、3年生は社会に出て、自分の力で輝き続けることにつながるのです。「キッズウィーク」後に、担任の先生方に、みなさん一人一人に聞いてもらいます。一人一人が、力強い決意を聞かせてくれることを期待し、私の話を終わります。

令和5年10月8日 岐南町立岐南中学校長 伊藤直輝